

私は、母校に理科教師として3週間教育実習に行かせていただきました。

実習1日目に全校集会や職員朝礼、担当クラスで挨拶させて頂き、とても緊張しましたが、久しぶりに訪れた母校に懐かしさを感じました。初日から3日目までは、理科の授業だけでなく、他教科の授業も見学させていただき、生徒たちの様子や授業方法を見せて頂きました。その中で現在の授業では、どの教科も必ず最初に目的やめあてを伝えていることに気が付きました。3日目には、朝の会や帰りの会を任されるようになりました。初めはやはり緊張し、すごく早口になってしまいました。指導教員の先生にアドバイスをもらいながら、1週間目が終わるまでにはゆっくり話せるようになりました。

1週間目では授業に活かせる沢山のことを学びましたが、一番悩んだことは生徒との関わり方でした。女子生徒は積極的に話しかけてくれましたが、男子生徒はなかなか話しかけてもらえなかったのです。距離を縮めようと、休み時間や給食の時間に話しかけてみたのですが、緊張しているのか目を合わせずに返事したり、返事さえ返してくれなかったり、コミュニケーションを取るのに苦労しました。どうすべきか悩みながら2週間目から始まる授業に使うプリントを作っていました。その時、配布するプリントにコメント欄を作り、授業ごとに回収してコメントをつけて返却することを思いつきました。

2週間目から、いよいよ授業が始まりましたが、その忙しさは想像以上のものでした。4クラス分の実験準備と片付け、授業で使うプリント作りに追われ、毎日20時まで学校に残り、試行錯誤しました。どうしたら時間内に、安全に実験を終えることができるだろうか。どうしたら生徒たちが実験を成功させることができ、達成感を味わうことができるだろうか。どうしたら生徒たちが実験結果から考察を導くことができるだろうか。そのようなことを考えながら自分自身も授業を行う前に何度も同じ実験をして用意を進めました。あれこれ考えて緊張しながら臨んだ初授業は、成功とはいえないものでした。細かい作業を必要とする実験は、私が考える以上に生徒たちにとっては難しいものだったようで、薬品をこぼしてしまう班や長い時間をかける班、実験がうまくいかない班が多数でした。授業を行うたびに指導教官の先生と反省会をし、授業における生徒たちの考え方や授業方法について教えてもらい、改善に努めました。わからないことだらけで焦ることが沢山ありましたが、その中でも生徒たちが書いてくれた授業プリントのコメント欄に励ましてもらいました。「先生の授業わかりやすいです」と書いてくれる生徒や「黒板の字はもう少し上に書いてください」と指摘してくれる生徒、みんな様々なコメントを書いてくれました。また、コミュニケーションを取るのに苦労していた男子生徒たちの中でも何人かは授業内容についての質問を書いてくれており、しっかり授業を聞いてくれているのだなと感じることができました。相変わらず会話は続かず、実習2週目も生徒との関わり方には悩みましたが、少し距離を縮めることが出来たような気がして嬉しくなりました。

いよいよ実習3週目になりました。2週間の実習が終わった段階では、正直にいうと実習は苦しいという思いでいっぱいでした。授業準備にかかる時間が長く、納得できる授業作りについて考えれば考えるほど分からなくなり、大変なのに時間が過ぎるのはとても早く感じていたからです。しかし、3週目の月曜日は驚くほど授業の空気感が変化していました。女子生徒だけでなく、男子生徒も積極的に話しかけてくるようになり、授業をするのが楽しいと感じるようになりました。こんなにも変化したのは、

授業プリントにコメントを返し続けたからだと思いました。授業準備に追われ、プリントにコメントするのが面倒くさく感じることもありましたが、コメントが書いてあるのを見ると嬉しくてやめることが出来なくなりました。そんな思いが生徒にも伝わったからか、授業中に発言する生徒も増え、授業内の雑談に笑う生徒が増え、本当に授業が楽しくなりました。3週目になって初めて、良い授業を作るには教師一人の力だけでなく、生徒との関係が必要だということが分かりました。

最終日が近づくにつれ、私を囲む生徒の数は増えていき、別れるのが惜しくなってきました。クラスの生徒だけでなく、他クラスの生徒たちも休み時間のたびに話しかけてくれるようになり、すごく嬉しく思いました。いよいよ最終日の帰りの会になり、最後に私からクラスのみんなにメッセージを言いました。私よりも10歳年下の生徒たちに、先生として、同じ学校出身の先輩として激励のメッセージを伝えている間に感極まって泣いてしまいました。生徒たちは笑いながら、でも真剣に私の話を聞いてくれました。そして最後に、クラスのみんなからメッセージカードをもらってまた泣いてしまいました。この学年で、このクラスで3週間頑張ってきてよかったなと思いました。

実習を振り返ると、もう少しこうすれば良かったと思う部分も沢山ありますが、学生ながらに社会人と変わらない生活を送るという貴重な経験ができ、人として少し成長することができたのではないかと感じています。大学での講義では感じなかった多くのことを、現場に出て初めて知り、感じ、学ぶことが出来ました。また、自分自身についても見つめなおす機会が多く、直すべき点を見つけることはもちろん、肯定できる部分も沢山見つけることが出来ました。生徒対応という面でも教育技術という面でも、本当に未熟な私でしたが、生徒たちに元気をもらい、先生方に励まされて3週間の実習を乗り切ることが出来ました。特に先生方には様々なアドバイスや手助けを頂き、勉強になりました。3週間の間、先生方は本当に休む間もなく長時間働いておられました。しかし、どの先生方も口を揃えて「先生っていい仕事だよ」と言っておられました。また、この学校が本当に暖かい学校だということも感じました。不登校の生徒のことや、怪我をしている生徒のことを先生方全員で把握し、サポートしておられました。そして、どの先生方も生徒を子どもとして見るのではなく、一人の人として向き合っておられました。すべきことが増える一方で、生徒との関わりを適当にしない姿勢に感動しました。また、生徒に対してだけでなく、先生同士もよくコミュニケーションを取っておられて、すごく良い学校だと感じました。実習校の卒業生として、生徒の頃は恵まれた環境の中で勉強することが出来ていたのだと思います。嬉しく、誇らしく思いました。

今回の実習を経て、将来、もし教師になることがあったら、私も生徒を人として見る事ができる教師でありたいと思いました。子どもだからと限界を決めてなんでもレールをひいてあげるのではなく、生徒一人一人に合わせた指導ができればと思います。思春期の難しい時期だからこそ、人格を形成し、大きく成長する良いタイミングだと思うので、様々な経験をし、感じ、学ぶ機会を子どもたちには作ってあげたいです。そして、生徒たちが卒業した後、何か壁にぶつかって自分を見失いそうになったら、「ここで自分は大きく成長できたから大丈夫だ」と思える場所を作ってあげたいです。

沢山悩んだ実習期間でしたが、指導教員の先生をはじめ、先生方には大変お世話になりました。生徒対応や保護者対応で毎日忙しくしておられるのに、よく実習生控室に顔を出し、採用試験や教育現場のことについて話して下さった指導教員の先生には本当に感謝しています。また、授業方法や実験準備については、初めからあれこれと指示せず、温かく見守り、授業後には根気強くアドバイスを頂きました。

た。生徒に対する想いも、授業作りに対する姿勢も心から尊敬できる先生でした。今後もここで学んだことを存分に活かして生きていきたいと思います。